

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団 平成 30 年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名：東京都文京区における 8020 達成者の追跡調査</p>
<p>2. 申請者名：文京区歯科医師会 会長 三羽敏夫</p>
<p>3. 実施組織：東京都文京区歯科医師会 8020 委員会 28 名 東京歯科大学歯科矯正学講座 東京歯科大学衛生学講座</p>
<p>4. 事業の概要： 文京区歯科医師会は文京区および東京歯科大学歯科矯正学講座並びに衛生学教室との共同で 8020 達成者の全身、口腔調査を 1996 年、2000 年、2005 年と 3 回に渡って実施し、日本歯科医師会雑誌に 2 度、また文京区歯科医師会ホームページにその結果を発表しています。本調査の特徴は各年毎の新 8020 達成者だけでなく初回の 8020 達成者から経年的調査をしていることで、3 回目の 2005 年には 7 名の 3 回連続出席者があり、8020 の達成が生活の“ハリ”となって彼らの自立に繋がることが示されました。この度、166 名の追跡調査を行ない、住所が判明している 120 名にアンケート調査を行いました。</p>
<p>5. 事業の内容： アンケート調査の内容は、ご存命者の場合には、ご家族構成・体調・健康管理(健康診断、現在の病気)・身体能力(歩行、会話、家事、仕事)・食生活・趣味や生きがいなど。ご逝去者の場合には、逝去年齢・死亡原因・死亡場所・介護期間・介護場所・介護者について記載して頂きました。その結果 17 名が御存命、31 名が既にご逝去されていました。17 名のご存命の方では、男性が 5 名、女性が 12 名。逝去者 31 名の性別は、男性 15 名、女性 16 名でした。17 名のご存命者の内、自分で食べられ咀嚼・嚥下に問題ない方 88.2%、歯の重要性を認識している方が 94.1%、日常の生活に問題なく、コミュニケーションが取れている方 80%以上と大変元気にお過ごしされていることが分かりました。また、ご逝去された 31 名の方についても、最後まで自分の力で口から食べることができた方が 64.5%と比較的多く、且つ介護期間が 1.9 年と厚生労働省の出している平均介護期間の約 10 年より短かったことがわかりました。今回の対象者で、介護期間が 1 年未満の方が 7 割を占めていたことは特筆すべきことであり、また逝去直前まで自分で食べられたという結果は、一般的に介護力を必要とする食事介護という部分においても介護期間を減少させる大きな要因になっていると考えられました。また、死因についても一般的には少ない老衰が第一位であり、30%程度いたことも特筆すべきことであると考えられました。</p>
<p>6. 実施後の評価 (今後の課題)： このように歯科医療が国民の QOL を高め医療費の削減や健康寿命の延伸に寄与し、しいては QOD をも高めていることを示す一例であると考えられました。 これらの結果を区民と歯科医師会の集いで発表予定であり、すでに昨年ロンドンで開かれた IADR 学会、文京区三師会学術大会などで発表させていただきました。今後も機会を探して発表していく予定です。</p>